

# 平成 28 年度 活動報告

教育部門

## 1. はじめに

教育部門では、本学での防災力を高めるために共通教育科目において授業を実施するとともに、「防災リーダーの育成」にかかわる「防災士」養成にも取り組んでいる。また、鹿児島県を中心とした南九州での「地域防災力の向上」に資するために、鹿児島県教育委員会等と連携して、平成 28 年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」等に取り組んでいる。

## 2. 本学における防災教育の実施

### (1) 共通教育科目 5 科目の提供

#### A. いのちと地域を守る防災学 I Disaster mitigation to guard lives and communities I

前期毎週講義／2 単位／教養教育科目(教養活用科目)／統合 I (課題発見)／全学部対象

担当教員：岩船昌起 他 11 名

#### 授業概要 (目的・内容・方法)

授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。後期の「いのちと地域を守る防災学 II」と対になる構成となっており、前期の本授業では、災害を知り、それに対する対処・対策を考えることに重きが置かれている。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の 1 つとなっている。

#### 学習目標

1. さまざまな自然災害の発生のしくみを始めとして、防災にかかわる知識や技術などを理解し、災害種ごとに説明できる。2. 災害種ごとに一般的な対策・対処のしかたを理解し、地域の特性に応じておおそ適当な対策などを選択できる。3. 万が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得する。

#### 授業計画 (回数, 授業内容, 分担任担当者)

1. 講義の目的/防災士とは/近年の自然災害に学ぶ (地域防災教育研究センター; 岩船昌起)
2. 災害と応急対策 (地域防災教育研究センター; 岩船昌起)
3. 津波のしくみと被害 (理工学研究科; 柿沼太郎)
4. 土砂災害と対策 (農学部; 地頭 隆)
5. 火山噴火のしくみと被害 (理工学研究科; 八木原 寛)
6. 風水害と対策 (理工学研究科; 安達貴浩)
7. 島嶼災害と対策 (地域防災教育研究センター; 下川悦郎)
8. 鹿児島の自然災害史 (理工学研究科; 井村隆介)
9. 地震のしくみと被害/地震に関する知見・情報 (理工学研究科; 小林励司)
10. 避難と避難行動 (理工学研究科; 浅野敏之)
11. 耐震診断と補強 (理工学研究科; 澤田樹一郎)
12. 災害と危機管理 (地域防災教育研究センター; 岩船昌起)
13. 福島に学ぶ -放射線災害と情報伝達- (自然科学教育研究支援センター; 福德康雄)

14. 中山間地域における地盤災害と農地復旧対策（農学部；平 瑞樹）
15. 学校教育における防災教育の実情と課題（教育学部；黒光貴峰）

## B. いのちと地域を守る防災学 II Disaster mitigation to guard lives and communities II

後期毎週講義／2単位／教養教育科目(教養活用科目)／統合 II (課題解決)／全学部対象

担当教員：岩船昌起 他 11名

### 授業概要 (目的・内容・方法)

授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。前期の「いのちと地域を守る防災学 I」と対になる構成となっており、後期の本授業では、災害にかかわる情報を知り、新たな減災や危機管理の手法を身に着けることに重きが置かれている。また、鹿児島市消防局、鹿児島地方気象台、県危機管理課、県原子力安全対策課からの授業を用意しており、行政の防災関係機関の現場対応などを知ることができる。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の1つとなっている。

### 学習目標

1. 災害にかかわる情報の種類やその発信・入手方法の概要を理解し、災害種や災害ステージ等に応じてそれらを説明できる。 2. 新たな減災や危機管理の手法を一般的なレベルで理解し、地域の特性に応じておおよそ適当な手法を選択できる。 3. 万が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得する。

### 授業計画 (回数, 授業内容, 担当者)

1. オリエンテーション／災害とボランティア活動（地域防災教育研究センター；岩船昌起）
2. 災害と流言・風評（理工学研究科；小林励司）
3. 大規模災害と情報通信 I（学術情報基盤センター；升屋正人）
4. 大規模災害と情報通信 II（学術情報基盤センター；升屋正人）
5. 気象災害の監視と予測（地域防災教育研究センター；眞木雅之）
6. 火災と防火対策（鹿児島市消防局；齋藤栄次）
7. 鹿児島県の災害と危機管理（鹿児島県危機管理防災課；小田健治）
8. 自然災害に対する行政の危険防止責任（法文学部；森尾成之）
9. ハザードマップ（理工学研究科；井村隆介）
10. ト라우マの理解と心理的ケア I（教育学部；関山 徹）
11. ト라우マの理解と心理的ケア II（教育学部；関山 徹）
12. 地域の復旧と復興（法文学部；小林善仁）
13. 鹿児島県の原子力防災対策（鹿児島県原子力安全対策課；池亀昭紀）
14. 火山の監視と防災情報（鹿児島地方気象台；原田智史）
15. 避難所運営と仮設住宅の暮らし（地域防災教育研究センター；岩船昌起）

## C. 地域防災学実践 I Regional Disaster Prevention: Practice and Activity I

前期集中講義／2単位／教養教育科目(教養活用科目)／統合 II (課題解決)／全学部対象

担当教員：岩船昌起／AL (アクティブ・ラーニング) 1. グループワーク

### 授業概要 (目的・内容・方法)

この講義では、地域防災に係わる自然現象や社会問題等を素材にし、鹿児島県を中心とした南九州から南西諸島までを対象地域として、6・7月の土曜日ごとの3日間で集中講義を行い、講義とグループ学習を行う。講義は「防災士」資格取得プログラムに準拠した内容であり、地域防災に係わる知識を総合的に得ることができる。グループ学習では、講義の内容を生かした地域防災に係わる複合的なテーマを設定してもらう。そして、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習し、グループテーマについて取りまとめと発表を行う。なお、本授業は、リベラルアーツ教育にも大いに係り、本学で取得可能な「防災士」資格科目の1つでもある。

## 学習目標

- (1) 講義で提示される防災・減災に係わるさまざまなテーマについて内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。
- (2) グループ学習では、講義で提示されたものと異なる防災・減災に係わる複合的なテーマを選択し、これに関連する問題を独自の視点で討論して、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。
- (3) テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。

## 授業計画（回数、授業内容）

6・7月の土曜日の3日間に実施する。予定では、6月25日、7月2・9日。

初日：6月25日1～5限、共通教育棟1号館137教室にて。

- 1回：講義の目的/防災士とは/近年の自然災害に学ぶ
- 2回：防災士の役割/身近でできる防災対策
- 3回：行政の災害対応（第8講）

（霧島市安心安全課：徳田 純）

- 4回：グループ学習 I—テーマ選択・役割分担
- 5回：グループ学習 II—役割分担ごとに発表準備

2日目：7月2日1～5限、共通教育棟1号館137教室にて。

- 6回：グループ学習 III—役割分担ごとに発表準備
- 7回：グループ学習 IV—役割分担ごとに発表準備
- 8回：地域の復旧と復興（第31講）
- 9回：災害と応急対策（第10講）

- 10回：グループ学習 V—役割分担ごとに発表準備

3日目：7月9日1～5限、共通教育棟1号館137教室にて。

- 11回：被害想定とハザードマップ（第25講）
- 12回：防災訓練（第14講）
- 13回：グループ学習 VI—役割分担ごとに発表準備
- 14回：グループ発表会
- 15回：まとめおよびレポート執筆の指示等

約1週間後に最終レポートを提出して、終了とする。

- 16回：期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

なお、担当教員の岩船が全ての講義を担当するが、3回目の講師として、霧島市安心安全課を予定しているが、台風の襲来や大規模災害等の発生やその懸念がある場合には、講義内容および講師が突然変更される。

## D. 地域防災学実践Ⅱ Regional Disaster Prevention: Practice and Activity Ⅱ

後期集中講義/2単位/教養教育科目(教養活用科目)/統合Ⅱ(課題解決)/全学部対象  
担当教員：岩船昌起/AL(アクティブ・ラーニング) 1. グループワーク

### 授業概要（目的・内容・方法）

この講義では、地域防災に係わる自然現象や社会問題等を素材にし、鹿児島県を中心とした南九州から南西諸島までを対象地域として、12月の土曜日ごとの3日間で集中講義を行い、講義とグループ学習を行う。講義は「防災士」資格取得プログラムに準拠した内容であり、地域防災に係わる知識を総合的に得ることができる。グループ学習では、講義の内容を生かした地域防災に係わる複合的なテーマを設定してもらおう。そして、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習し、グループテーマについて取りまとめと発表を行う。なお、本授業は、リベラルアーツ教育にも大いに係り、本学で取得可能な「防災士」資格科目の1つでもある。

### 学習目標

- (1) 講義で提示される防災・減災に係わるさまざまなテーマについて内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。
- (2) グループ学習では、講義で提示されたものと異なる防災・減災に係わる複合的なテーマを選択し、これに関連する問題を独自の視点で討論して、グループとしての考えと方策などを具体的に

まとめ上げ、それを適切に発表できる。

(3)テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。

#### 授業計画（回数、授業内容）

12月の土曜日の3日間に実施する。予定では、12月3・10・17日。

初日12月3日：共通教育棟1号館137教室（1・2限）と common room 2（3～5限）にて。

1回：講義の目的/防災士とは/最近の災害事例

2回：グループ学習 I—テーマ選択・役割分担

3回：火災と防災に係る総合演習 I（鹿児島市消防局；斎藤栄次）

4回：火災と防災に係る総合演習 II（鹿児島市消防局；斎藤栄次）

5回：火災と防災に係る総合演習 III（鹿児島市消防局；斎藤栄次）

2日目12月10日：共通教育棟1号館137教室にて。

6回：防災士の役割／身近でできる防災対策

7回：地域の自主防災活動（第11講）

8回：グループ学習 II—役割分担ごとに発表準備

9回：災害とボランティア活動（第12講）

10回：避難と避難行動（第26講）

3日目12月17日：共通教育棟1号館137教室にて。

11回：津波及び風水害のしくみと対策（第16講・第18講）（理工学研究科；柿沼太郎）

12回：災害と交通インフラ（第6講）（理工学研究科；柿沼太郎）

13回：グループ学習 III—役割分担ごとに発表準備

14回：グループ発表会

15回：まとめおよびレポート執筆の指示等

約1週間後に最終レポートを提出して、終了とする。

16回：期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

なお、1日目に、鹿児島市消防局職員による授業を予定しているが、大規模災害等の発生やその懸念がある場合には、講義内容が突然変更される。また、担当者の表示がない回については、岩船が担当する。

#### E. 防災フィールドワーク Fieldwork for Disaster Prevention

前期集中講義／2単位／教養教育科目（教養活用科目）／統合 I（課題発見）／全学部対象

担当教員：岩船昌起、稲留直子／AL（アクティブ・ラーニング）1. グループワーク

##### 授業概要（目的・内容・方法）

この講義では、災害での停電時の中でも「生き残る力」を養うために霧島市国分毛梨野集落で野外生活を実践するとともに、霧島市消防局の全面的な協力を得て防災や救急救命に係わるフィールドワークを霧島山麓を学習の場として実施する。このような活動を通じて、地域に内在する特徴や課題について実践的に学び、諸課題の解決につながり特に「地域の防災力・救急救命力」を向上させるための方策について考察し、かつ地域社会における防災や救急救命に係わる本質と問題点をよく理解して、鹿児島や日本や世界の諸地域と霧島山麓との違いを比較考察できる素養と自己開発の能力を身につける。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上させ、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図る。なお、5千円程度の宿泊経費等が必要となる。

##### 学習目標

(1)災害での停電時の野外生活を想定して、火を使った調理等や、ナイフを使った竹箸の制作ができる。

(2)毛梨野集落や霧島山麓における実地視察や関係者との交流を通して、地域の自然環境、住民の生活、生業等の特徴を把握し、災害時のサバイバル生活や防災・減災および救急救命の観点から独自の問題を調査する。

(3)同地域等の防災力・救急救命力のさらなる向上のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループでの実地調査に基づき改善策等を

具体的に討論しその成果を発表する。

(4) 野外生活、実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。

テーマ別に編成されたグループにおいて、これら四つの学習目標を達成する。

### 授業計画（回数、授業内容）

4月23日と5月8日、8月29日～31日の予定。以下の授業計画は、「予定」であり、地域の関係機関との調整により今後変更の可能性がありますので、注意してください。詳しくは、履修申請時に公表します。

◎第1日目：4月23日（土）3限・4限、学術情報基盤センター第二端末室

1回：全体オリエンテーション(1) 13：00開始

2回：全体オリエンテーション(2) 16：00終了

◎第2日目：5月8日（日）、霧島市国分毛梨野集落

(1) JR国分駅に集合し、バスや教員の自家用車（公用車）に分乗して毛梨野集落に到着後、現地で開講式を行う。

3回：オリエンテーションとフィールドワーク I

(2) 緊急時の生活に係わる総合的な説明を受け、毛梨野集落住民のサポートを受けながら、火起こしや炭火調理等を体験する野外活動をグループごとに実施する。

4回：フィールドワーク II

(3) 昼食の後に、同じく住民のサポートを受けながら、ナイフで箸をつくる野外活動を実施する。

(4) 後片付けをして、毛梨野集落での活動の閉講式を行い、循環バス等乗車を経て、JR国分駅で解散する。

5回：フィールドワーク III とまとめと課題の指示等

◎第2日目：8月29日

(1) 早朝に鹿児島大学からバスで出発し、霧島市消防局に到着後、現地で開講式を行う。

6回：オリエンテーション等

(2) 消防職員等による救急救命に関する総合的な説明を受け、グループ分けを行う。

7回：消防職員等による解説

(3) 昼食の後に、北消防署に移動して救急救命に係わる説明や講習（普通救命講習）を受ける。

8回：救急救命に係わる説明や講習

(4) 霧島自然ふれあいセンターに移動し、国立公園での防災に係わる講話を環境省の自然保護官から受ける。

(5) グループ毎に説明や講話の内容について討論し、防災または救急救命に係わる調査のテーマを決定する。

9回：講義 I およびディスカッション

◎第3日目：8月30日

(6) 早朝に自然保護財団えびの支部所長からの講義を受け、その後夕刻まで実地調査を行う。

10回：講義 II

11回：フィールドワーク IV

12回：フィールドワーク V

(7) 夕刻から、調査結果についてグループ毎に取りまとめ、発表準備を行う。

13回：グループ学習 I

◎第4日目：8月31日

(8) 早朝から発表の最終準備を行う。

14回：グループ学習 II

(9) 13時頃から北消防署関係者の前で成果発表を行い、意見交換を行う。

15回：成果発表会およびまとめ等

(10) 終了後、修了式を行い（普通救命講習? 「救命技能認定証」を合格者は受け）、バスで鹿児島市へ戻る。

16回：期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）。

1週間以内に、調査ノートに最終報告レポートを記入して、共通教育係へ提出する。  
なお、台風の襲来や大規模災害等の発生やその懸念がある場合、講義内容が大幅に変更される。

### 3. 「防災士」養成の取り組み

#### (1) 防災士資格取得試験対策講座

日程：平成 29 年 2 月 4 日（土）13:30～16:30

場所：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟 3 号館 3 2 1 教室

内容：防災士教本のポイントの説明、過去問題の検討等。

参加者：学生 16 名（女 5 名，男 11 名）、社会人 5 名（女 2 名，男 3 名）、計 21 名

#### (2) 日本防災士機構による防災士資格取得試験 1 回の実施

日程：平成 29 年 2 月 18 日（土）14:00～15:00

場所：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟 3 号館 3 2 1 教室

内容：日本防災士機構から試験官 2 名来学して実施。

受験者：学生 16 名（女 5 名，男 11 名）、社会人 5 名（女 2 名，男 3 名）、計 21 名

※ 今年度は、救急救命講習会、防災ネットワーク活動、教職員研修等については、本センター独自で実施しなかった。

### 4. 地域との連携による事業の実施

#### (1) 文部科学省「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」の支援

鹿児島県の教育・文化・交流を推進する鹿児島県教育委員会では、「学校安全」の充実を図る取組として「防災教育モデル実践事業」（文部科学省「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」委託）を実施している（鹿児島県教育委員会 HP）。本センターでは、県・市町教育委員会からの要請を受けて、平成 24・25 年度に霧島市と志布志市、平成 26・27 年度に奄美市と東串良町に専門家を派遣してモデル校で地震・津波・火山噴火・豪雨・山地崩壊等による災害の解説や警戒避難対応への助言を行った。文部科学省の事業名が平成 26 年度以前の「実践的防災教育総合支援事業」から平成 27 年度には「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」に変更となり、総合的に学校等の「安全」力を高めることが主目的となったが、引き続き「防災教育」を中心とする取り組みがなされていた。平成 28 年度には、新たに指宿市と大崎町に専門家を派遣してモデル校で地震・津波等による災害の解説や警戒避難対応および災害応急対応への助言を行った。

#### ●指宿市防災教育推進委員会での活動報告

対象事業：平成 28 年度「防災教育を中心とした指宿市実践的安全教育総合支援事業」推進委員会

##### ・第 1 回推進委員会

日時：平成 28 年 12 月 8 日（木） 15:00～16:30

場所：指宿市中央公民館 中会議室

内容：(1) 事業説明等【15:10～15:35】

ア事務局より、イ本市及び学校における防災教育の課題、ウ質疑応答

(2) 関係者説明

ア鹿児島大学地域防災教育研究センター【15:35～15:50】

岩船昌起「自然災害からの避難方法と防災教育

ー熊本地震災害、東日本大震災を顧みて」

イ鹿児島地方気象台【15:50～16:00】

(3) 質疑応答及び意見交換【16:00～16:25】

(4) その他

## ・指宿小学校における防災教育に係る研究授業

日時：平成29年1月30日（月） 13:35～16:40

場所：指宿市立指宿小学校（住所：指宿市西方4692-1）

内容：(1)研究授業【13:35～14:20】

ア指宿小学校教員「地震や津波を知ろう」

(2)校内研修【14:45～16:40】

ア授業研究、イ授業者反省、ウ研究協議、ウ指導助言

(3)指導講話【15:30～16:30】

岩船昌起（鹿児島大学地域防災教育研究センター）

「津波の規模や到達予想時間を考慮した避難行動」

柿沼太郎（鹿児島大学大学院理工学研究科）

「津波の数値シミュレーション」

## ●大崎町実践的安全教育推進委員会での活動報告

対象事業：平成28年度「大崎町防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業推進委員会」

### 目的

南海トラフ巨大地震津波被害想定地域にある大崎町の各学校において、避難場所、避難経路設定、施設・整備の状況などについて、鹿児島大学の地域防災教育研究センターの教員や鹿児島気象台などの専門家から指導・助言を受けるとともに、地域の防災関係機関や大学・研究機関などとの連携体制を構築することなどにより、防災管理・組織活動の充実・徹底を図る。

【拠点校】大崎町立大丸小学校、【連携校】大崎町立菱田小学校、大崎町立大崎中学校

- ・第1回推進委員会 平成28年8月23日 14時～15時30分 大崎町中央公民館  
出席：鹿児島大学地域防災教育研究センター 浅野敏之 井村隆介
- ・第2回推進委員会等 平成28年12月2日 大崎町大丸小学校 大崎町中央公民館  
9:40～11:25 大丸小学校避難訓練参観 その後、意見交換  
13:00～14:30 第2回推進委員会  
15:00～16:40 鹿児島地方気象台による津波防災ワークショップの講演  
その後、意見交換・指導  
出席：鹿児島大学地域防災教育研究センター 浅野敏之 井村隆介
- ・第3回推進委員会等 平成29年2月1日 大崎町大丸小学校 大崎町中央公民館  
13:50～14:05 大丸小学校避難訓練(地震火災)参観 その後、意見交換  
14:05～14:50 津波防災出前講義(井村隆介准教授)  
15:00～16:40 第3回推進委員会  
出席：鹿児島大学地域防災教育研究センター 井村隆介

## 5. その他

### ●口永良部島2015噴火災害対応報告会

－応急対応・復旧・復興にかかわる支援活動と研究－

主催：鹿児島大学地域防災教育研究センター

後援：屋久島町

日時：2016年6月4日（土） 13:30～16:30

会場：鹿児島大学 稲盛会館

## プログラム

### 開会挨拶

総合司会：地頭菌 隆（農学系教授）

13:30-13:35 浅野敏之（地域防災教育研究センター長）

### 基調報告

13:35-14:00 森山文隆（屋久島町総務課長）：

口永良部島新岳噴火災害の概要と復旧・復興での鹿児島大学への期待

### 第一部 支援活動およびその検証等にかかわる研究報告 司会 黒光貴峰（教育学系）

14:00-14:30 岩船昌起（地域防災教育研究センター）：

口永良部島新岳噴火災害での応急対策・復旧策立案にかかわる支援活動とその検証

14:30-14:55 福満博隆・長岡良治・川畑和也（教育学系）：

口永良部島新岳噴火避難者への運動及びレクリエーション活動による健康づくり支援の効果についての研究

### 第二部 応急対応・復旧・復興の支援にかかわる研究報告 司会 西 隆一郎（水産学系）

15:10-15:35 丸谷美紀・兒玉慎平・日隈利香・森隆子・稲留直子（医学系）：

口永良部島新岳噴火の被災者支援における保健師の役割

15:35-16:00 升屋正人（学術情報基盤センター）：

口永良部島における防災 Wi-Fi ステーション整備モデル

16:00-16:25 佐藤宏之（教育学系）：

歴史災害を防災に活かす

### 閉会挨拶

16:25-16:30 下川悦郎（名誉教授）

※情報交換会 17:00~19:00

## 【趣旨】

鹿児島県では、11 活火山があり、それぞれの火山活動の高まりや噴火に対して、警戒避難対応や応急対策および復旧等、即時的な防災対応の必要性にしばしば迫られている。特に諏訪之瀬島、口永良部島、薩摩硫黄島等のような「島しょ型火山」では、海に隔てられている地理的特性から、避難行動、支援者・救助者等の編成、支援物資運搬、通信等にさまざまな制約がともない、内陸での火山防災とは異なる対応が必要である。

この「島しょ型火山」である口永良部島新岳が 2015 年 5 月 29 日 9 時 59 分に爆発的に噴火し、火砕流が前田集落近くまで流下した。気象庁では噴火警戒レベル運用後初めて最高レベルの「レベル 5」まで引き上げ、これを受けて屋久島町では口永良部島全域に避難勧告および避難指示を発表した。口永良部島島民は、番屋ヶ峰等に一時避難したが、町営フェリー「太陽丸」や海上保安庁巡視船や鹿児島県消防防災ヘリコプター等で 82 世帯 137 人の島民全員が口永良部島を脱出し、当日夕方から屋久島町宮之浦地区の避難所等での避難生活をはじめた。

鹿児島大学地域防災教育研究センターでは、発災翌日の 30 日以降、総合防災分野担当教員を屋久島に派遣し、避難生活の改善や応急仮設住宅の供給にかかわる「災害応急対策支援活動」を行ってきた。また、今回の災害での被災者支援の検証にかかわる研究や、口永良部島の復旧・復興の支援にかかわる研究についても同センター兼務教員を中心に精力的に実施してきた。

これらの支援活動および応急対応・復旧・復興にかかわる研究は、地域防災教育研究センターの平成 27 年度国立大学法人運営交付金特別経費（プロジェクト分）- 地域貢献機能の充実「南九州から南西諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築」における「プロジェクト研究」によって遂行されたものであり、本センターの設立目的の「応急対応、災害復旧・復興などの地域防災に係る課題の解決」を「口永良部島 2015 年噴火に係わる災害」に対して実践し、屋久島町を始めとする「地域」に貢献できた顕著な事例群ともみなすことができる。

そこで、本報告会では、第一部でこの支援活動について報告するとともに、第二部での応急対応・復旧・復興の支援にかかわる研究の成果についても紹介したい。そして、口永良部島の復旧・復興において、「地元の大学」である鹿児島大学が継続的にできる支援活動のあり方を考える契機としたい。